

こっこめ通信 09 2026

「夏は終わり？」号



八丈島ではアカコッコのことを親しみを込めて「こっこめ」とよびます。

夏休みが終わり、だんだんと人の流れが落ち着いてきたような気がします。一方で暑さはまだまだ続きそうです。日差しは肌をジリジリと照りつけ、日陰に入ると今度は蚊が「待ってました！」と言わんばかりに集まってきます。早く過ぎやすい季節になってほしいものです。

さて、今回は「水面にいる幼魚を見比べてみた」と、2回の子供クラフト「自然色のクレヨンを作ろう」「くるくるアニメを作ろう」についてのお話です。

水面にいる幼魚を見比べてみた

今年の夏は「潮だまり探検隊①」が雷の影響で中止になり、8月12日に開催する予定だった「潮だまり探検隊②」も海況不良で中止となってしまいました。夏になってからはまだ台風の接近こそありませんが、かなり遠くにある台風からのうねりが何日も続き、海水浴場も赤旗の日が続いてしまっています。通常の台風と違って東から西に進路をとっているため、うねりの影響が長くなっています。

そんな中、唯一泳げた神湊海水浴場で採取したという生き物を、連日水槽を見に来ていた子供さんが持ってきてくれました。水面を泳ぐ幼魚は、みんなボラだろうと勝手に思っていたのですが、よく見ると何種類かの魚が混じっていることが分かり、写真を撮って比べてみました。

まず写真右上段の少しスマートな魚は、トウゴロウイワシ科の「ムギイワシ *Atherion elymus*」と思われます。「日本産 魚類検索 全種の同定」によると、頭部に小棘列があり、肛門が後方に位置しているのが特徴のようです（写真下左）。近い仲間の「トウゴロウイワシ」が島言葉で「とーご」と呼ばれていることから、昔から島では見られる魚のようです（区別していない可能性有り）。岸近くの表層にいるため、ダイビングなどでは見ない魚ですね。体をくねくねと動かして泳ぎます。イワシと名がついていますが、下段のボラに近い仲間になります。

中段と下段の魚はボラ科の幼魚ですが、まだ小さく種の判別ができなかったので「Aタイプ（中段）」と「Bタイプ（下段）」で分けました。Aタイプは背中側に少し色が付き、Bタイプは背中が銀色のため上から見ると光って見えます（写真下右）。体に対しての目の大きさもBタイプの方が大きく見えます。

撮影したのが8月14日、その後、展示水槽で順調に育ち、体も大きくなってきています。同定ができるようになったらまた紹介したいと思います。（H.T.）



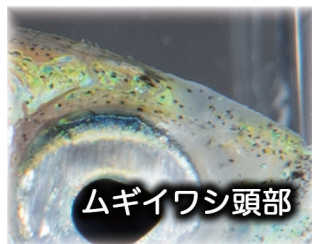
ムギイワシ



ボラ科A



ボラ科B



ムギイワシ頭部



B

A

「アカコッコ」は日本固有のツグミ科の鳥で、国の天然記念物に指定されています。八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

子供クラフト「自然色のクレヨンを作ろう」

8月23日、毎年恒例となっている夏休み子供クラフトの1回目が開催されました。

数少ない小学生を対象とした行事である「夏休み子供クラフト」は、夏前からスタッフがどんな企画をしたら、小学生のみんなに楽しんでもらえるのか、アイデアを出し合いながら企画をしています。

第1回目の夏休み子供クラフトは「自然色のクレヨンを作ろう」でした。

貼ってあったポスターを見て「え？クレヨンって自分で作れるの？」と聞かれた事もありました。私自身、この企画をしたものの、本当にできるのか半信半疑でした。

とは言うものの、いつになく燃えてきたスタッフ2名！試作に取りかかるとああでもないこうでもないという試しました。顔料に花びら、スコリア、軽石、コーヒー、土などを使用して作ってみました。

その結果、花・スコリア・軽石は細かくできず、紙への色乗りが悪くなってしまい、イマイチなのがわかりました。

コーヒーはミルで30秒ほど豆を砕き（もちろんコーヒーを入れた後の豆）、1リットルくらいのお水に入れてかき混ぜ、少し時間を置いてできた上澄みを濾紙で濾し、乾燥させてふるいにかけることで粉末を作ることができました。花壇の土も同じ要領で粉末にしました。それぞれ溶かした口々に植物油を数滴垂らし、粉末を加えて混ぜ、型に流し込んで冷ませばクレヨンが出来上がるのです。文章にすると簡単そうに感じますが、実際は粉末の粒子の大きさ、吸水率などを一つひとつ確認しながら、ちょうどいい分量を確かめたので、たくさんの時間と労力が必要でした。私たちスタッフの方が、夏休みの自由研究をやっているかのようでした。それくらい手間暇をかけて準備したんですよ！

最終的には、コーヒーとビジターセンター前の花壇の土を使うことにしました。

一番上の画像は、試作で作ったクレヨンと実際に描いた様子です。どれも描くことはできますが色の出方が薄く、一番良かったのは「花壇の土」と「コーヒー」だったことがわかりますね。

口を湯せんで溶かすので、参加者がヤケドをしないか心配だったのですが、口をこぼすアクシデントがあったものの、誰も怪我をすることなくクレヨンを作ることができて良かったです。

最後にみんなからは、「楽しかった」や「想像していたより簡単だったから、家でも作れそう」「クレヨンの材料に口（ワックス）が使われていることを初めて知った」という感想をいただきました。全員に楽しんでいただけたようで良かったです。時間をかけ、頑張って準備してきた甲斐がありました。

次回クレヨンを作る機会があったら、もっといろんな色を自然からいただいて、カラフルなクレヨンを作っていきたいと思っています。私たちの研究はまだまだ続くのでした。

また一緒に遊びましょうね！（M.K.）



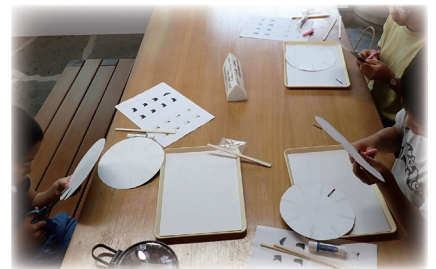
子供クラフト「くるくるアニメを作ろう」

夏休み恒例の小学生対象の子供クラフトですが、学年によってできることや得意な作業が大きく異なるため、建付けの工夫や扱う道具の配慮に例年スタッフは頭を捻っています。そこで8月30日に開催した今年の第2回目は、低学年から高学年までが等しく知的好奇心を刺激されるよう、「科学の視点（観察のメガネ）」を通して島の生きものの“動き”を捉えなおすアプローチ実験として企画しました。

きっかけは上京時に訪れた有楽町の「国立映画アーカイブ」で「夏休みこども映画館」のチラシを目にし、「子供向け映画ワークショップ」についてのお話を職員さんから伺ったことです。ここから着想を得て、今回はアニメーションの原点ともいえる視覚玩具「フィナキスティスコープ（おどろき盤）」を作ることに決めました。

「フィナキスティスコープ（おどろき盤）」とは、19世紀前半に発明された初期のアニメーション装置（視覚玩具）です。円盤の周囲に少しずつ変化する絵を描き、その間に細いスリット（隙間）を開けておきます。この円盤を鏡に向け、裏側から回転させながらスリット越しに鏡を覗き込むと、目の「残像現象」によって絵がなめらかに動いているように見える仕組みになっています。

単に「動くおもちゃを作って楽しかった」で終わらせないことが、本企画の最大のこだわりで、映像技術や科学の原理（視覚の錯覚）はそれ自体が刺激的な学びですが、そこに「身近な自然の観察」という視点を掛け合わせることで、より深い学びになると考えました。そこで今回は、私たちが暮らす八丈島ならではの生きものたちを題材に選出。青紫に輝くハチジョウカラスアゲハと風を切るギンヤンマ（羽ばたきと飛翔メカニズムの違い）、すばしっこく走るニホンイタチと壁をしなやかに這うミナミヤモリ（骨格や体の動かし方の違い）など、科学の原理を通すことで、見慣れた生きものたちが躍動的に立ち現れてくる姿を目指しました。



当日はまず、映画の歴史や残像現象の仕組みからスタート。実物のパラパラ漫画なども交えながら説明すると、子どもたちは「なぜ動いて見えるのか」という原理に興味津々で耳を傾けていました。

仕組みを学んだ後は、いよいよ「おどろき盤」の制作です。円盤状の厚紙に8等分のスリットを開け、用意した8コマの生きもののイラストを配置し、回転を安定させる円形の厚紙を円盤に張り付け、中心を割りばしの先端に画鋏で固定して完成となりました。

完成した円盤を鏡に向け回転させながらスリットを覗き込むと、「本当に動いた！」との声が上がリ、自らの手で命を吹き込んだ島の生きものたちが動き出した瞬間の、子ども達の目の輝きが印象的でした。

この発見でさらに創作意欲に火がついた子どもたちは、用意された見本にとどまらず、自分で一からコマを描き出す「オリジナルアニメーション」にも果敢に挑戦。初めは「どうやって動かせばいいんだろう？」と難しそうに頭を悩ませていたものの、複数の生きものを交互に登場させたり色の変化を活用したりと、自分の世界を表現しようと夢中で鉛筆を走らせる姿が見られました。

科学の驚きと自然への愛着が交差しただけでなく、子どもたちの自発的な表現力まで芽生える、熱気に満ちたひとときとなりました。(R.T.)



2026 09

八丈ビジターセンター プログラムカレンダー

日付の下に書かれている時刻は、八丈島(神湊)の潮の満ち引きの時刻です。
また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5 ガイドウォーク
		05:27 19:30 00:09 12:25	04:51 19:02 11:53	05:27 19:30 00:09 12:25	06:03 19:57 00:42 12:57	06:43 20:26 01:18 13:30
6 ガイドウォーク	白露 7	8	9	10	11	12 ガイドウォーク
07:27 20:55 01:58 14:04	08:20 21:26 02:45 14:42	09:26 22:00 03:41 15:24	10:55 22:40 04:48 16:16	12:49 23:30 06:00 17:26	14:40 18:59 07:11	00:35 15:59 08:16 20:33
13 ガイドウォーク ゆるり自然観察会 「鳴き声の主」	14	15	16	17	18	19 ガイドウォーク
01:43 16:56 09:15 21:45	02:47 17:43 10:09 22:39	03:45 18:24 10:58 23:25	04:39 19:00 11:44	05:30 19:32 00:06 12:26	06:20 20:00 00:47 13:04	07:09 20:23 01:28 13:39
20 ガイドウォーク	21 ガイドウォーク	22 ガイドウォーク	秋分 23 ガイドウォーク	24	25	26 ガイドウォーク 八文学講座 「地図から八丈島を 見てみよう！」
07:58 20:44 02:10 14:11	08:53 21:05 02:56 14:41	10:00 21:29 03:49 15:10	11:38 22:01 04:54 15:45	14:02 22:51 06:08 16:47	15:38 18:58 07:22	00:16 16:20 08:25 20:51
27 ガイドウォーク	28	29	30			
01:41 16:52 09:16 21:49	02:42 17:20 09:58 22:26	03:29 17:46 10:34 22:56	04:09 18:10 11:07 23:24			この色の日は ガイドウォークや 特別行事があります

イベントプログラム

ゆるり自然観察会
「鳴き声の主」

毎月テーマを変えて、ゆったりと公園内の自然を親しむ自然観察会。
9 / 13 (日) (13:30 ~ 約1時間半)
小学生以上 (小学生は保護者同伴) ビジターセンター集合・解散 参加費: 無料 定員: 10名

八文学講座
「地図から八丈島を見てみよう！」

毎月行っている八文学講座。いろいろな地図を使って八丈島を見ていきます！
9 / 26 (土) (13:30 ~ 約1時間半)
中学生以上 ビジターセンター集合・解散 参加費: 無料 定員: 10名

植物公園ガイドウォーク

解説員が植物公園内をご案内します。
毎週 土日祝日及び休日、(10:30 ~ 約1時間) だれでも参加できます。
ビジターセンター集合・解散 無料 定員: 10名

ビデオプログラム

10:00 ~ 八丈・海・生きものたち
11:00 ~ おじゃりやれ 八丈島
14:00 ~ おじゃりやれ 八丈島
15:00 ~ おじゃりやれ 八丈島
16:00 ~ 八丈・海・生きものたち
上記以外での上映は予約にて可能です

東京都八丈ビジターセンター 2026.9.1 第304号

開館時間 9:00 ~ 16:45 年中無休 (入場無料)

〒100-1401

東京都八丈島八丈町大賀郷2843

電話: 04996-2-4811 Fax: 04996-2-4888

<https://www.tokyo-park.or.jp/park/hachijo/>

編集後記

8月の1ヶ月の間に10個もの台風が発生しました。中でも、8月5日に発生した台風15号は11日夜に本土へ上陸し、大きな被害をもたらしました。今後も地震や台風、大雨などの自然災害に注意を向け、自分にできる備えをして過ごしていきたいです。(K.T.)